

## <7月第1例会報告>

書記 杉本隆人



- ・日時：2018年7月19日（木）  
19：00～20：45
- ・場所：西神戸YMCA 401号室
- ・出席：阿部夫妻、合田、佐伯、杉本夫妻、達、田辺、中村、長坂、野呂、藤井信、藤井久、以上 13名
- ・ビジター：三浦克文ワイズ（岡山クラブ）

### 講演「私のワイズ人生」

講演者：三浦克文（岡山クラブ）

7月のキックオフとして相応しい例会となった。また、岡山クラブと六甲部（神戸クラブ）とは深い関係があることがわかった。今回、岡山クラブとのDBCを締結した中で、相互理解を深めることともなったが、歴史も深く、わがクラブでは、阿倍さんが神戸クラブに在籍した当時の繋がりがあり、昔話に華が咲いたヒトコマもあり、大いに勉強となりました。

講演者の三浦さん、本当に遠い所に来ていただき、ありがとうございました。

今期も引き続き、極力、例会での食事会を会長方針として活動していくこととして、みなさんと共に食事しながら、懇親を深めました。本来ならば、二次会にて酒宴を開くのですが、車で来てくれており、お酒も飲めないの、次回の楽しみとして早々にお見送りしました。 感謝



## <8月事務例会報告>

書記 杉本隆人

- ・日時：2018年8月2日（木）19：00～21：00
- ・場所：西神戸YMCA
- ・出席者：佐伯、杉本、田辺、丹家、長坂、中村、野呂、藤井（信）、藤井（久）

### 1. 報告事項

- (1) 六甲部Yサ・ユース事業委員会 7/18、18：00～長坂氏報告
- (2) 六甲部評議会 7/21  
参加者：佐伯、杉本、達、中村、長坂、野呂
- (3) 西日本区大会評価会・慰労会 7/23  
参加者：杉本、田辺、中村、長坂、収支報告あり
- (4) ワイワイまつり第1回実行委員会 7/24 田辺
- (5) 西日本区定款第3条第6項改正（国際憲法の改正に伴う）に賛成
- (6) ユニフォーム代金補助金¥1,000を購入者へ返金
- (7) ロスター 2018-2019 配布

### 2. 協議事項

- (1) 副会長、2019-20 会長の件
- (2) 瀬戸山陰部編入検討委員会 8/18(土)13～17時、神戸YMCA 出席予定者：田辺、杉本
- (3) 25周年記念例会 実行委員長 杉本
- (4) DBC交流会 時期？ 担当？  
福井での懇親会 時期？ 担当？
- (5) DVD “西日本区新生ワイズ越し運動”
- (6) 今後の例会予定：（年間計画表参照）
  - ・ 8月5日（日）学園夏祭り
  - ・ 9月20日（木）卓話 山本智子（いっくんのママ）（公開例会）
  - ・ 10月20日（土）ワイワイまつり
  - ・ 11月3日（土）チャリティラン
  - ・ 11月8日（木）公開講演 関 啓子（三鷹高次脳機能障害研究所所長）  
「伝えたい、脳卒中とその後遺症」
  - ・ 2月 アンガーコントロール（公開例会）？
  - ・ 3月 フルート演奏会（公開例会）？  
演奏 河合久美子（京都ウエストクラブ）、  
吉田由美（大阪なかのしまクラブ）
  - ・ 4月 老年医学（公開例会）？
  - ・ 六甲部会 9/22（土）神戸YMCA 12:30～19:00  
8,000円

## < 学園夏祭 >

会計 佐伯一丸

恒例の学園夏祭が8月5日（日）  
17：00～20：30 地下鉄学園都市



駅の北側のキャンパスドームで開かれました。商店、自治会が主体となって開かれたもので、軽食・飲み物・ゲームなどの多数の円形に設置された屋台、中央には盆踊用の櫓と踊りやダンス用の広場が設けられ、YMCA キッズダンス、よさこい踊り、フラダンスなどの演舞の他、和太鼓の演奏、吹奏楽団の演奏など、最後まで賑やかに楽しませてくれました。最後はもちろん盆踊で賑やかに終わりました。

わがワイズは西神戸 YMCA と一緒になって、昨年と同様に、握力測定と瞬発力測定を行いました。多数の方が参加してくれました。



「フランス・ルルドからピレネー山脈を越えてサンチャゴ・デ・コンポステーラへ 2 大聖地を訪ねて 10 日間」(第 1 回)

丹家元陽 ワイズ



2017 年 7 月 15 日 (土)  
AM5:40 いつものようにセコムして出発。一番ワクワクする時。

AM 6:15 伊丹着、気温 29℃湿度 76%。AM 8:00 伊丹発。AM 9:20 成田着。出国審査後、早速さくらラウンジで一服。サンドイッチをつまみながらの

スパークリングワインが喉に心地いい。AM 11:20 搭乗と同時にシャンパンのサービス。

AM 11:40 離陸。PM 1:00 昼食。JAL の和食は、美味との妻の勧め。先付に胡麻豆腐ワサビ乗せ、鮭のコンフィ。次に折に入っているのが、夏野菜と若布のジュレ掛け、セロリの土佐酢漬、そば真砂和え、蛸旨煮、南瓜、茄子揚げ出し、うどんと人参のきんぴら、うざく、真鯛の昆布、京風出汁巻き玉子等をシャルル エドシック ブリット レゼルヴのシャンパンで頂く。メインは和風牛タンシチューと銀鱈みそ漬けに御飯、みそ汁、香の物が付き、ステルハイス シュナン ブラン 2015 (南アフリカ 白ワイン) と天喜純米大吟醸 (埼玉県) を楽しむ。デザートは水羊羹。大満足の昼食後、本を読んでいて、いつしか夢の中へ。

目が覚めると飛行機はサントペテルブルクを通過。早速の夕食は子羊のグリーンカレーロースト、茄子のポアレ、トマトのフレッシュチーズファルシ、メロンとミントのサラダ、パン。

PM 4:35 予定より少し早くシャルル・ド・ゴール着。約 12 時間のフライト、時差 7 時間。PM 9:00 AIR FRANCE にてフランス南部 TOULOUSE へ。PM 10:20 着。まだ空はゴルフができる位に明るい。PM 10:40 ホテルまでのバスが走り出すと同時に近くの公園から突然の花火が連続して打ち上がった。我々の到着を歓迎しているかと思いきや、フランスでは 7 月 14 日が革命記念日で、その続きとの事。空港近くのホテル着。成田で仕入れたおにぎりを食べてバタンキュー。

7 月 16 日 (日)

朝の気温 17℃。晴。気持ちいい。ここトゥールーズは人口約 50 万。フランスで 5 番目の大都市で地元で採れる桃色の土を使ったレンガで造られているのでバラ色の街といわれている。20 世紀初めに造られたトゥールーズ大学の学生数約 10 万人。特に理工学部が人気。というのもここにはボーイングと並ぶ世界二大航空機メーカーのエアバス本社がある。コンコルド 14 機もここで造られた。フランス最初の朝食をゆったりと頂き、いざトゥールーズ市内観光。

ガロンヌ河 (西へ流れボルドーを経て大西洋のビスケー湾に注ぐ大河) を渡り、まずはサンセルナン寺院へ。12 世紀に造られ、3 世紀にこの地にキリスト教を伝えたと言われる聖セルナンが祭られている。高い天井が美しいカーブを描いており、外は地元産の薄い桃色レンガが使われていて非常に優雅な佇まい。八角形の鐘楼は高さ 150m でゴシック様式のアーチが見事。次はオーギュスタン美術館。14 世紀、修道院として建て

られ、18世紀に美術館に改装された。展示品はロマネスク、ゴシック彫刻、17～19世紀の絵画と幅広く、踊り子で有名なドガの絵もある。特に見ごたえのあるのは柱頭彫刻の数々。

バスに乗る事約2時間(170Km)で Lourdes 着。まずはルルドのホテルチェックイン後、昼食のレストランへ。まずは地元のビールで喉を洗い、前菜はたっぷりの野菜サラダにスイカ。メインはカスレ。鴨のコンフィに豆が添えられていて食べ応え充分。デザートはラズベリー添えのアイスクリームでさっぱりと終了。

これからルルドの観光。街の中央にそびえる中世の城塞をぐるっと回った所には広い広い広場が。その先にはロザリオ聖堂がそびえる。入口の左側には聖ピオ10世地下聖堂があり、東西201m×南北81mの巨大な体育館様で、一度に3万人が礼拝できるという。19世紀半ば、14才の少女ベルナデットは洞窟近くの川岸で薪拾いをしていた。すると突然目の前に白いドレスに青いベルト、足元には黄色のバラをたたえた聖母マリアが現れる。1回ならともかく計18回現れ、「泉へ行き水を飲み、身体を清めなさい」のお告げ。その通り地面を掘ると泉が湧き出し、人々の病が次々に治ったという「ルルドの奇跡」。

今も泉が湧くマサビエールの洞窟の横には、聖水を汲む為の蛇口があり、人々でごった返して、19

世紀初め人口数100人の村が今や年間数100万人の巡礼者が集るヨーロッパ3大聖地の1つになっているとの事の不可思議。もし日本で当時(江戸時代末期)14才の娘が近くの岩山で「お釈迦様」に会ったと云えば「この子、突然気が触れた。」としか思われませんよね。キリスト教の理解しかねる一面に触れた時でした。

夕食はホテルのレストランで。ズッキーニのスープ。メインは鱈のムニエル ライス添え、チョコレートケーキのデザートに地元の辛口ワインが合う。

さてPM9:00 ホテル出発。ホテルの前の土産屋さんで長さ約50cm位のローソクを買い込む。向かうはロザリオ聖堂前の広場。すでに1000人以上の人々が集っていて、皆、手にはローソクを。火は近くの人々のローソクから頂く。にわかクリスチャンに変身して大行列に参加。最前列には白い服を着たボランティアの人に押された車イスの方々、次には車イスベッドが続くのびっくり。そして一般の人が続く。数千人の行列なので中々進まない。そこで途中で抜け出し前方の聖堂の上のテラスに先回りして、上からこちらに向かって来る行列を迎える。牧師さんのミサが終るのがPM10:30。ようやく日が暮れてゆらゆらと揺れる無数のローソクの明かりが美しい。

## < 今 月 の 詩 >

神よ、  
変えることのできないものは  
それを受け入れる冷静さを、  
変えることのできるものは  
それを変える勇気を、  
そして  
変えることのできないものと、  
変えることのできるものを  
見分ける智慧を与えたまえ。

ラインホルド・ニーバー (1892-1971)

米国の政治学者、神学者、社会倫理学者、「ニーバーの祈り」は、1934年の夏、別荘近くの小さな教会でニーバーが説教した時に作った無題の祈り。知人にゆずった祈りの原稿がニーバーの作と明記されることなく出版された。その後、第二次世界大戦中に兵士へのクリスマスカードに印刷され愛唱されるように。戦後は、アルコール依存症の自助組織のプログラムにも採用され広まった。「平静を求める祈り」「冷静の祈り」とも言われる。

～「ポケットのなかの祈り」いのちのこば社フォレストブックスより～